

安田学園

「今日一日のこと」



平川蒼也(2年=中堅手) **河田佑真**(2年=右翼手) **齋藤輝**(2年=遊撃手)
平川蒼也が巧打と守備でチームを支え、河田佑真は3番打者として得点に絡む。ショートストッパー齋藤輝は攻守にセンスみなぎるプレーで屋台骨を形成する



田畑暁哉(2年) **稲葉颯来**(1年)
安定感を誇る技巧派右腕の田畑暁哉と、粘り強いピッチングをみせる軟投派サウスポー稲葉颯来。今季の安田学園は、右と左のダブルエースで勝ち上がっていく



2013年選拔出場の伝統校 巨人・阿部慎之助監督の母校

安田学園が大切にしているのは「今日一日のこと」だ。創設者・安田善次郎翁の言葉で、学校の指針として継承されている。グラウンドのスコアボードには「今日一日のこと」の言葉が掲示され、選手たちを勇気付けている。

■「今日一日のこと」から学ぶ
安田学園は、千葉県鎌ヶ谷市の専用グラウンドで練習に励む。選手たちは、最寄りの新鎌ヶ谷駅からグラウンドまで約2キロの距離をウォーミングアップ代わりに駆けていく。その光景は「鎌ダッシュ」と呼ばれているという。汗をぬぐう選手たちを迎えるのは、スコアボードに貼られた「今日一日のこと」という言葉。すべては掲示されていないが、学校の教えであるため選手たちは復唱できるほどに心に刻まれている。人として正しい道を照らすと共に、「存命を喜び、家業(勉強)を大切につとめること」

となっている。選手たちは、野球ができることに感謝し、その時間を大切にしている。
■阿部慎之助を輩出した伝統校
阿部慎之助(巨人監督)を輩出した伝統校で、2012年秋決勝で早稲田実業に勝利して都大会制覇。翌年春の選抜に出場し甲子園初出場を成し遂げている。あれから10年、進学実績が高まったことなどによって2度目の甲子園出場は果たせていないが、會田勇氣監督、渋谷大輔助監督(安田学園OB)ら若い指導者のもと練習に打ち込んでいる。昨夏は4回戦まで勝ち上がったが日大豊山に惜敗。新チームで迎えた昨秋は2回戦で日大鶴ヶ丘に0対16で完敗した。今季のチームは、平川蒼也(2年=外野手)、河田佑真(2年=外野手)、齋藤輝(2年=内野手)の野手陣と、田畑暁哉(2年)、稲葉颯来(1年)の投手陣が軸となる。
■キャプテンシーあふれる1年生主将
現在のチームをまとめるのは、1年生の大型

打者・増田光太郎主将(内野手)。昨夏から主砲としてレギュラー出場した増田主将が、2年生の力を借りながら牽引している。増田主将は「今年のチームは個人の能力が高いので、それをチームとしての形にしていける必要がある。秋2回戦で大敗した悔しさを忘れずに高いレベルを目指していく。1日を大事にして、春・夏に勝ち切るチームになっていく」と話す。選手たちは日々、自分自身と向き合い、己の力を伸ばす。成長の先に勝利がある。

主将の チーム分析

増田光太郎 主将
(1年=一塁手)

『今日一日』を大切にしていこう

「選手一人ひとりの意識が高く、一丸となって戦うことのできるチームです。守備からリズムをつかって攻撃につなげていく戦いが特長。春、夏は機動力を活かした攻撃をみせていきたいと思っています。『今日一日』を大切にしたい時間を過ごしていきたいと思っています」



今日一日の事(安田学園創設者 安田善次郎翁)

- 1. 今日一日 親・先生・身の回りの人たちの恩を忘れず、不平不満を言わないこと
- 1. 今日一日 決して腹を立てないこと
- 1. 今日一日 嘘をつかず、無理な願いごとをしないこと
- 1. 今日一日 人の悪口を言わず、自分の自慢話をしないこと
- 1. 今日一日 存命を喜び、家業(勉強)を大切につとめること

安田学園高校

【住所】東京都墨田区横綱2-2-25
【創立】1923年 【甲子園歴】春1回
1923年に東京保養商業学校として開校。安田学園中も併設する。もともとは男子校だったが、2014年に男女共学となった。野球部は2012年秋に都大会を制し、翌2013年選抜大会で甲子園初出場。野球部OBに阿部慎之助(巨人監督)。



安田学園・會田勇氣監督 伝統にふさわしいチームになる

「安田学園の伝統にふさわしい行動を取ることが大前提で、学校から応援されるチームにならなければいけない。大切なことは『今日一日』。1日の積み重ねが夏につながっていくと考えています。スター選手はいないので組織力を活かして部員全員で戦っていきます」

1992年東京都生まれ。明大中野八王子一明大順天堂大学院。大学院在籍中から安田学園学生コーチを務め安田学園教員へ。2020年秋から監督。2021年秋都大会ベスト16。2013年選抜出場時のキャプテン渋谷大輔助監督と共にチーム強化を図る。